

打上げ貝観察会

2025.02.01 (土) 実施



講義の様子



貝の観察の様子（大浜海岸）



貝の観察の様子（コバルトブルービーチ）



しおかぜ
コバルト
ブルービーチ

角島大浜海水浴場



参加者が持参された貝



参加者が持参された作品



見つかったユリヤガイ



種の同定の様子

つしま自然館
地域の動植物を紹介
するシンプルな博物館

2月1日(土) つしま自然館(以下、自然館)では、豊北町自然観察指導員会の杉村智幸さん(山口市在住)を講師に、「角島打上げ貝観察会」を実施しました。今回は、早めに定員に達し、佐賀や福岡、大分県からも参加していただくなど、講師の人気の高さを改めて感じました。

最初に、角島周辺の貝類相について、40数年の記録をもとに、画像を使いながら分かりやすく説明していただきました。1980年8月から2020年9月までに、角島周辺から観察した海産貝類は5綱180科900種が紹介され、観察した900種の貝類の分類を4つの分布域(①寒流系13%、②汎太平洋系3%、③温帯系36%、④熱帯系48%)に分け、その中で、温熱帯系貝類が84%とほとんどを占めて、暖流の影響を受けやすいことがわかりました。過去の自生を調べないと貝のことはわからないことや、瀬戸内海では寒冷の影響を今でも受けていることもわかりました。対馬暖流は、北長門海岸のはるか下流で黒潮から分岐した支流で、そのため、貝類構成に与える影響は黒潮ほど受けにくく、角島周辺の貝類相は、太平洋海岸の同緯度地方のものとは異なるようです。また、角島は環境の変化に富んでいて、地域を5つに分類(①北西部、②南東部の海岸、③無井湾、④沿岸部の浅海底、⑤角島沖漸深海底)し、貝類相についてそれぞれの顕著な生息状況を示されながら、実際には地理区ごとに異なり、角島周辺を多様なものに行っていることもわかりました。紹介された貝の中に、講師の杉村先生の名前がついた貝がいくつかあり、講師の長年の調査・研究の成果を垣間見ることができました。講義の後、小雨の降る中、打ち上げられた貝を採集しに海岸に出かけました。大浜海岸からコバルトブルービーチまで、途中起伏のある岩場を歩きながら、漂着するポイントを何ヶ所か教えていただきました。中には、初めて「ユリヤガイ」を採取した参加者もいて、「想像以上に小さく、二枚貝のように見えるのに、巻貝でびっくり!」と感動されていました。外での約1時間の活動を終えて自然館に戻りました。小雨の中を歩いたので、講師から参加された希望者へ、「山口県の貝類」のガイド本のプレゼント(今回限定)がありました。

午後は、ほとんどの参加者が残られて、採取した貝の「種の同定」を行いました。本を参考に、貝の名前を見つけたり、講師に質問したりして、熱心にラベルに書き込まれていたのが印象的でした。来年度も講師と相談しながらよりよい観察会となるように企画したいと思います。地元の方にもたくさん参加していただきたいです。